

令和2年度病害虫発生予察注意報第2号

令和2年6月18日
愛知県

作物名：ブドウ、カンキツ
病害虫名：チャノキイロアザミウマ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 6月上旬にブドウ13ほ場で、ほ場周囲における本種の生息数調査（イヌマキ（防風垣）10新梢の払い落とし虫数）を行った結果、1ほ場あたりの平均捕獲個体数が7.4頭（平年5.3頭、前年16.9頭）で、過去10年間で2番目に多い。
- (2) カンキツほ場（南知多町、蒲郡市）に設置した黄色粘着トラップにおける本種成虫の誘殺数について、南知多町では6月第1半旬から第2半旬までの合計で43頭（平年12.5頭、前年17頭）と過去10年間で最も多く、蒲郡市では6月第1半旬から第3半旬までの合計で132頭（平年86.3頭、前年121頭）と過去10年間で2番目に多い（図）。

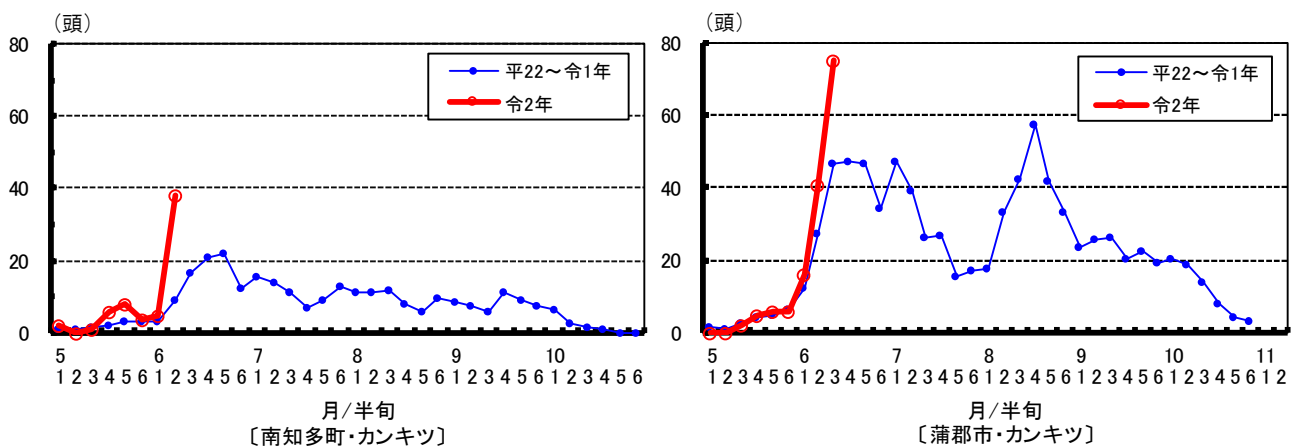


図 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ成虫誘殺状況

4 防除上注意すべき事項

- (1) ブドウでは、新梢で多発生した本種幼虫が果穂に移動して食害し、果軸が茶褐色に変色、果粒の着色や果粒肥大が悪くなる。ウンシュウミカンでは、本種が6月から7月に加害すると、果梗部に灰色～灰褐色のリング状の傷が生じる。
- (2) 防除適期である成虫の発生ピーク予測日（表1）に防除を実施する。
なお、気温の高い日が続いたため、第3世代成虫の発生ピーク予測日が前進している。さらに今後、日平均気温が平年より1℃高く推移すると、ピーク予測日が1日から2日程度早くなるので、今後の気温の推移を踏まえて防除日を設定する。
防除にあたっては、表2を参考にIRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避ける。ブドウでは、農薬によっては使用時期により果粉の溶脱を生じる恐れがあるので、十分に注意する。
- (3) 本種は寄主範囲が広く、イヌマキやサンゴジュ、チャ、ツバキにも好んで寄生するので、これらを防風垣にしているほ場や近くにこれらの植物が存在するほ場では被害を受けやすい。このため、周辺の寄主植物の発生状況にも注意する。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（月/日）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第2世代	6/15	6/14	6/11	6/11	6/15	6/16	6/13	6/14	6/17	6/13	7/8
第3世代	7/7	7/7	7/2	7/2	7/7	7/8	7/5	7/6	7/8	7/5	7/31
（前年）	7/10	7/11	7/5	7/6	7/10	7/12	7/11	7/10	7/16	7/10	7/12※
前年差	3日早	4日早	3日早	4日早	3日早	4日早	6日早	4日早	8日早	5日早	4日早※
第4世代	7/25	7/26	7/21	7/23	7/26	7/26	7/24	7/27	7/27	7/25	8/22

各地のアメダス平均気温から予測。 ※稲武については第2世代の前年ピーク日と前年差6月17日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。前年の第3世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

表2 チャノキイロアザミウマに対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	成分名	使用時期	使用回数	IRACコード
ぶどう	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
	スプラサイド水和剤	DMTP	収穫14日前まで	2回以内	1B
	スカウトフロアブル	トラロメトリン	収穫7日前まで	3回以内	3A
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	9B
	ディアナWDG	スピネトラム	収穫前日まで	2回以内	5
かんきつ	アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム	収穫7日前まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	9B
	コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫前日まで	2回以内	13
	ディアナWDG	スピネトラム	収穫前日まで	2回以内	5

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/lab/pdf/2019/mechanism_irac02.pdf を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-62-0085 内線471